

議会報告会実施報告書

開催日時	令和4年10月29日（土）13時30分～15時30分		
開催場所	花川南コミュニティセンター	聴衆	17名
担当議員	4班	遠藤、三崎、神代、佐藤、加藤、高田	

報告事項に関する質疑

【厚生常任委員会】

- Q1 市にプラごみの資源分別がないことに驚いた。粉碎埋め立てしか手はないのか。介護施設でストローを紙にできないかと提案したが、価格が高く個人負担となるため導入できなかった。市が紙のストローの導入支援をできないか。
- A1 市の施設の処理能力では現状、粉碎埋め立て。リサイクルはペットボトルとキャップのみ。現在は、紙ストローも施設側の判断によるが、市として導入支援することはご意見として伺う。
- Q2 札幌市を含めた広域連携についてはどうか。また新港地区の企業の廃棄食料などの調査は行っているのか。必要な人に届けるなども、たくさん元気なシニア世代がいるから参画できるようにならないか。
- A2 札幌市の西区発寒清掃工場の更新が北石狩衛生センターと同時。そのため現在、広域で石狩市の燃えるゴミを札幌で受けるという話し合いがなされている。札幌市はプラスチックを固形化して、それを引き取る民間企業がある。しかし、石狩のプラごみまで受けられるかなどについては今後協議の予定はある。フードロスの問題。札幌ではNPO法人などが運営しフードバンク、フードドライブなど不要となった食物を持ち込む場がある。石狩市の新港企業、農家など、市民・行政が協働すれば、そのような事業展開もできるのではないかと思う。
- Q3 ゴミ問題は排出抑制という視点が欠けている。政策として国に要望してほしい。
- A3 ご意見として承る。
- ※環境市民部では以前からゴミの減量化に取り組み、市民に協力をお願いし、一定の成果を出している。
- Q4 川崎市は個別収集なのか。石狩市は今後リサイクル種別を増やしていくなれば個別収集をどうするか。行政はどう考えているのか。
- A4 川崎市は個別収集していない。石狩市はどうするのか、という段階の前の前の段階。しかし、個別収集のメリットは石狩市民も感じているところ。個別収集をやめるとい

議会報告会実施報告書

うことにはならないと考える。

Q5 農家では廃棄野菜がたくさんでるが、市として農家さんと廃棄野菜の活用に取り組んでほしい

A5 農産物の値段を高値とするために、どうしても廃棄することとなる。食糧難の時代に廃棄するというのはもったいないこと。議会、行政、農協も一緒になってフードロスの対策を真剣に考えたいと思う。

【建設文教常任委員会】

Q1 なぜ門真市に視察に行ったか。文化、産業、生業など石狩市と全く違うが。また、貧困対策として生振小のキャリア教育を取り上げていたが、生振小の取り組みの素晴らしさはむしろ地域の農家さんとの学校田の取り組み。他の小中学校でも小さな農家と連携して生徒の受け入れを進めてほしい。

A1 先進地事例を調べて門真市の取り組みをぜひ見たいと思った。／人口規模がかけ離れているというところにはいかにしようにはしているが、先進地として目覚ましい取り組みをしている自治体だった。／門真市の企業が密集する地域の取り組みを視察して、子どもの貧困対策を行政だけで担うには限界があるなかで、石狩市でも民間と手を組んでいくというのは収穫があった。

Q2 門真市と比較すると石狩市の対策は少ないな、と感じた。しかし広げる可能性はある。どのように官民が協働していけるかというのが課題だと思う。ひとり親世帯への食料配布というのはお米のことか。

A2 お米の提供のこと。協働についてはご意見として承る。

【総務常任委員会】

Q1 スマホ時代になっていくのだということを実感した。ただスマホを持たない人たちにどうアプローチしていくのかということも提言して行ってほしいと感じました。そういう人たちについても言及してほしかったと思います。

A1 ご意見として承る。携帯を持たない方にも情報が届けられるようになっているが、段階を経てスマホを習得してもらえよう取り組みを進めている。

Q2 デジタル化は進むが使えない人が散在している。そういう人たちいかに市がどう教えていくのか。教育の場をつくるのか。

A2 スマホ教室を継続して行っているが、まずはスマホに慣れましょうという内容。きめこまかな教育については要望として承ります。

議会報告会実施報告書

- Q3 スマホを持っている人は周りに教えてくれる人がいて、スマホメーカーも教室を開催しているの、行政は小中学校のネットリテラシーや SNS について教えたり、地元の高齢者の方にスマホ利用の便利さについてお伝えする機会があればよい。
- A3 デジタル化が進んでいく中で、自治体主催の高齢者向けのスマホ教室や、子どもたちは一人一台端末を学校で活用し自宅に持ち帰っている。ご意見として承る。

意見及び要望等 「※(コメ)に続くコメント」は、後日確認して追記。

Q1 樽川在住 A さんより要望 (後日全てに返答必要)

Q1-1 まちづくりについて。将来の市街地の核となるのは「鉄道」。樽川地区「とれのさと」の裏側(23.6ha)の土地に、貨物を中心として線路を通し、そこに商業ゾーン、健康ゾーン、公共ゾーンを造成すべきではないか。トラックドライバーの高齢化、脱炭素の観点からも、コンテナを各地に届けるには貨物鉄道が一番合理的。

※石狩市における鉄道を含む軌道系交通機関の誘致は、過去に要請活動などが行われていたが、現在は気運の高まりが見られない状況ではあります。道央都市圏の都市交通マスタープランや市の総合計画において、その重要性が引き続き高いとの観点から、実現可能性について盛り込まれている。社会活動で密接に結び付いている札幌市などと連携し、実現の方途を粘り強く探しているところ。しかしながら、石狩湾新港からの物流は、花川通の延伸、国道 337 号線の整備など道路網に重点が置かれているところ。

Q1-2 2030 年新幹線開通に合わせ函館本線が廃線かと言われている。しかし太平洋側が津波で線路が使えなくなった場合、北海道の物流はどうするのか。生活がストップしてしまう。国で函館本線を維持するよう議会として要望してほしい。

※函館本線の貨物存続の協議は、北海道知事と沿線自治体、国土交通省によって今後行われることが報道されており、市議会としても動向を注視したいと考える。

Q1-3 市内のインフラ工事が少ない。今の工事件数で、上下水道、道路など市民生活に直結するインフラが本当に安心して使えるものなのか。

※限られた予算の中で、補修や維持など市民生活に支障が起らないよう優先順位をつけて工事を行っている。

議会報告会実施報告書

Q1-4 危機対策について。厚田・浜益の自然災害の発生や北朝鮮からのミサイル攻撃に議会としてどう対応しようとしているのか。新港地区には危険物が集積しており、想定外の被害となるのでは。

※どのような事態が発生したかに応じて、自治体、都道府県、国がそれぞれの役割分担に応じて対処する。自治体で対処しきれないような危機には、国主導のもと自衛隊や緊急消防援助隊の派遣などが発動される。9月には新港地区の火災を想定した三署合同火災防衛訓練(小樽市消防署、札幌市手稲消防署、石狩市石狩消防署)も実施。

Q1-5 マイナンバーカードは国策だが、現状で使い道がほとんどない。市の職員は率先して持つべきだが、市民より取得率が少ないという。つくりたいと思えるような政策を議会として国に要望してほしい。

※石狩市職員の取得率は約7割で、市民の取得率よりも高い状況。マイナンバーカードの活用を国に求めるというご要望は承る。

Q1-6 職員の市外在住の問題。幹部職員の6割が札幌在住で非常時にどのようにあたるのか。災害対策本部を立ち上げた時に、指揮する職員がそこにいるのか不安。議会としても、職員は石狩在住者を増やすことを求めている。

A1-6 ご意見として承る。

※市民要望や議会議論を経て、令和2年度の石狩市職員の採用資格試験の採用条件から「共通の受験資格として、採用後に石狩市内に居住可能な方とします。」と明記している。

Q2 ふれあいの杜こども館。利用者のエリアはどこでもいいのか。それならば、手稲街道を渡らないとバス停がない。行政が中央バスに施設側にバス停を設置するよう依頼するようにしてほしい。議会でそのようなことが議論されたことはないのか。花川南に中央バスのバス停を一つ手前の樽川の方にできないのか。

A2 新たな児童館のバス停としての要望などはなかったと記憶している。地域要求としてはオンデマンド交通を求めたことはある。バス停のご意見は承る。

※人口減少及びコロナ禍による利用者の減少、さらに乗務員不足の中、交通事業者はバス路線の維持を最優先しており、改善の検討が以前に増して難しくなっている状況であるが、「地域公共交通活性化再生法」の趣旨に鑑み、市が主体となり、交通事業者と連携して地域の移動サービスを確保するなかで、乗降場所の改善も含めた持続可能な検討がなされるものと認識している。

議会報告会実施報告書

Q3 J アラートが鳴った。「避難してください」というのはどうしたらいいのか。議会できちっと話題になっているか。

A3 議会で取り上げた記憶はない。ご要望として承る。

※町内会回覧板で、国の「弾道ミサイル落下時の行動」を周知している。

『屋外にいる場合は、ミサイル着弾時の爆風や破片などの被害を避けるため、近くの建物の中か地下に避難する。建物がない場合は、ミサイル着弾時の爆風や破片などによる被害を避けるため、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。屋内にいる場合は、爆風で壊れた窓ガラスなどで被害を受けないよう、できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。』

Q4 花川南地区で交通誘導指導員が定員割れしている。有償ボランティア、1回出て200円、そのような処遇でいいのか。担う人が全くいない時代に則した制度にしないといけないのでは。

A4 ご要望として伺う。

※議会でも、行政に対し求めているところ。

Q5 花川南の道路の悪さ。整備は逐次進められているが、遅いという印象。

A5 ご要望として承りる。

※議会でも、行政に対し求めているところ。

Q6 職員の市外在住の問題。避難所運営の訓練。果たして、市の職員は災害時に出てこられるのか。問題の発展は、町内会の役員の担い手不足となる。退職した市職員が町のことに関与しない。また全く無償のスクールガードに立ってもらっているがこちらも担い手不足。

A6 法律上、採用条件に石狩市在住とつけられないという理由を市側からは聞いている。

※市民要望や議会議論を経て、令和2年度の石狩市職員の採用資格試験の採用条件から「共通の受験資格として、採用後に石狩市内に居住可能な方とします。」と明記している。

Q7 花川南2条3丁目の防風林の中の小道。夏はやぶのようになる。草刈りがしていないので犯罪に巻き込まれる子どもなどが増えるのでは。ここを通路としては認めていない。しかし、市は黙認している。毎日200名くらいは通るのでは。自己責任で通るでいいのか。

A7 かなり前から使われていること聞いている。あそこの防風林は国有林となっているので、草木を持ちだすことも禁止されている。従来から黙認されているところ。事故や事件がおきるというのはありうること。要望として承る。

議会報告会実施報告書

※環境市民部より「来年度の夏季に現地を確認した上で、町内会と具体的対策について対応する」とのことです。

- Q8 志美から浜に向かう水道局の施設があるあたりのカシワ林が企業所有の民有地として、大量に伐採されてしまった。あそこの土地は、残土置き場を拡張するためのものなのか?石狩中学校の裏には、すごい量の新幹線残土がトラックで運搬されている。トンネル残土の抜き取り検査はとてつもない加減なもの。無対策土であるかということも調べることもできない。市は立ち入りや監視する義務があるのではないか。また、開発されるときに住民説明会がなされるべきではないか。昔から住んでいる住民は大変怒り狂っている。
- A8 近隣住民からご相談いただいていた。カシワ林は防風林としてもなっていた。砂利業者の民地で、市は全く手を出せない。埃の発生などについては指導しますということだったが、残念な様子になっている。新幹線残土は北海道が管轄で、対策土は新港地区で判別され、汚染度は手稲山口、それ以外は盤溪に運ばれている。市が把握できる民有林は1ha以上。このカシワ林の件も市は事後で聞いたという。何かしら大きな開発をするときは、市に対して届出や住民説明が必要というルール化していかなければいけない。民有地の開発規制は大変難しい。9月に議員を対象に鉄道運輸機構による説明がなされた。石狩湾新港に運び込む掘削土から海水に流出する汚染水の検査とモニタリング方法など。議員より、不安視する市民が多いため市民向けの説明会の開催を求め、今後も継続協議。